

# 2022年度のボランティア支援実績

## ◆学生のボランティア登録数・派遣数・ボランティア依頼数実績

2023年3月14日現在

年度	新規登録学生数	派遣学生数	ボランティア依頼数
2015年度計	164名	349名	181件
2016年度計	259名	235名	140件
2017年度計	327名	443名	287件
2018年度計	363名	490名	271件
2019年度計	460名	572名	238件
2020年度計	223名	154名	98件
2021年度計	397名	323名	141件
2022年度	577名	916名	185件
累計	2,770名	3,482名	1,541件

※ボランティア支援室が開設した2015年1月15日～3月分は2015年度計に計上  
 ※2015年度～2021年度卒業生1256名含む

## ◆2022年度 学生のボランティア参加実績(抜粋)

カテゴリー	活動名	依頼	形態	活動日	参加学生数
まちづくり・イベント支援	金沢八景権現山公園 はじめての茶会	公益財団法人 横浜市緑の協会	単発	5月14日	7名
まちづくり・イベント支援	上大岡 Halloween 企画・運営メンバー	上大岡コカラ	単発	9月1日～10月31日	7名
まちづくり・イベント支援	第7回浜大祭 臨時スタッフ募集!	浜大祭実行委員会(第72代)	単発	10月22日～11月7日	70名
まちづくり・イベント支援	"World YC-YO Champion SHU TAKADA パフォーマンス"案内と誘導	進文会・横浜市大同窓会	単発	11月6日	4名
まちづくり・イベント支援	杉田梅まつりの運営スタッフ・ボランティア募集	梅のまち杉田実行委員会	単発	2月17日～19日	9名
学習支援	大学生学習支援スタッフ	一般財団法人神奈川ゆめ社会福祉財団	通年	2022年度延べ9日	10名
学習支援	むうたん塾	六浦地域ケアプラザ	通年	毎週木曜日	4名
学習支援	テスト前学習会 教育ボランティア	横浜市立 釜利谷中学校	単発	9月6日～2月9日	10名
学習支援	横浜市立大道中学校 放課後学習会	横浜市立 大道中学校	単発	10月28日～12月20日	3名
学習支援	家庭訪問による学習支援事業	特定非営利活動法人教育支援協会南関東	単発	11月8日～	5名
学習支援以外の子ども・青少年支援	第4学年 上郷宿泊体験学習ボランティア	横浜市立 豊岡小学校	単発	11月2日・11月6日～7日	3名
高齢者支援と健康に関する活動	フードドライブ品の仕分け等ボランティア	公益社団法人フードバンクかながわ	通年	8月10・16・22・25・27日	4名
高齢者支援と健康に関する活動	「食の支援」ボランティア	横浜市立大学ボランティア支援室	通年	8月1日・11月8日・1月31日	13名
自然・環境保全活動	秋の森おさんぽラリー ボランティア	日本野鳥の会 横浜自然観察の森	単発	10月8日～9日	4名
文化・芸術・スポーツに関する活動	第25回称名寺新能「金澤能」前日舞台設置&当日ボランティア	称名寺新能実行委員会	単発	5月2日～3日	2名
文化・芸術・スポーツに関する活動	「第17回湘南国際マラソン」一般・救護ボランティア	湘南国際マラソン事務局ボランティアセンター	単発	12月4日	17名
国際交流・多文化共生に関する活動	留学生対象日本語授業のボランティア前期	横浜市立大学	単発	4月～7月	25名
国際交流・多文化共生に関する活動	留学生対象日本語授業のボランティア後期	横浜市立大学	単発	10月～1月	61名
国際交流・多文化共生に関する活動	ウクライナ緊急募金活動	かながわ学生ボランティア連合	単発	7月4日～8日	6名
国際交流・多文化共生に関する活動	あーずフェスタかながわ2022 企画委員	あーずフェスタかながわ実行委員会事務局	単発	6月～12月4日	8名
国際交流・多文化共生に関する活動	ベトナムフェスタ in 神奈川 2022 ボランティアスタッフ	ベトナムフェスタ in 神奈川 2022 運営事務局	単発	9月10日～11日	12名
国際交流・多文化共生に関する活動	かながわ探検隊(鎌倉ツアー)	かながわ国際ファンクラブ	単発	9月8日	2名
国際交流・多文化共生に関する活動	かながわ探検隊(三浦半島ツアー)	かながわ国際ファンクラブ	単発	3月16日	2名

## 横浜市立大学 ボランティア支援室

〒236-0027 横浜市金沢区瀬戸 22-2  
 YCUスクエア1階カウンター&2階 S27「Volouenge」  
 Tel: 045-787-2444 Fax: 045-787-2093  
 Mail: volunteer@yokohama-cu.ac.jp



ボランティア支援室 HP



ボランティア支援室 Instagram



ボランティア支援室 Twitter



Volunteer Report



Beach Clean



Yokohama Marathon 2022



French Film Festival 2022 Yokohama



Visiting Lectures

## 活動が戻りつつある今、高まっている学生の興味・関心

新型コロナウイルス感染症の影響を受けること3年目となった2022年度ですが、原則対面授業となり、キャンパスにも学生の姿が戻ってきました。横浜マラソン2022やフランス映画祭2022横浜、あーすフェスタ、杉田梅まつりなどの大型イベントも開催され、マスクの着用や事前の検温などの条件付きながら、学生が学外に出て活動できる機会も増えてきました。いずれの活動につ

いても、ボランティア支援室では基本的に昨年度に引き続き「学生の自主的な活動を止めない」方針で進めました。

そのような中で、ボランティアに関する問い合わせや相談がコロナ前に比べて格段に増え、学生の興味・関心が高まっているのではないかと感じています。具体的には、2022年度のボランティア登録者数が577名(本誌P.12参照)、派遣数も依頼が減

少したにもかかわらずコロナ前の2019年度より増えています。相談件数も2021年度/280件、2022年度/390件(3月13日現在)と増えており、活動できなかった期間を経たからこそ、学生の間に「何か学生のうちにできることをしたい」「今できることは何だ?」という気持ちがあふれてきているのかもしれない。



### 地域の課題を解決する「協働プロジェクト」の運営

ボランティア支援室では2022年度、学生の興味・関心を高め、活動の現場を増やすために、4つの協働プロジェクトを企画・運営しました。2021年度に引き続き「循環型食の協働プロジェクト(食のサイクル活動)」と「YCU病院ボランティアプロジェクト」、2022年度に開始した「YCUウクライナ支援プロジェクト」と「YCU×SEED プリスター回収プロジェクト」です(本誌P.4～P.7参照)。

これらのプロジェクトは、地域課題の解決及びSDGsの目標達成に貢献するためにそれぞれテーマを設け、地域団体や企業・行政などと協働・連携しながら継続中です。ボランティア支援室から課題を提起し、参加した学生に向けてテーマに沿った情報や活動参加の機会を提供しながら、プロジェクトごとに学生団体の立ち上げや学生ならではの発案の促進、自主的な企画・運営などをサポートしています。

こういったプロジェクトについては、世の中の変化に伴い少しずつ軌道修正をする必要もあります。例えば「YCU病院ボランティアプロジェクト」は、現在ボランティアが院内に入れるようになり、活動内容も変わってきました。また、学生からの相談により今後新たに立ち上げを検討されるテーマ・課題などもあり、各プロジェクトともボランティア支援室から離れて、自主的な活動に進化できるよう伴走支援の必要性を感じています。

### 地域と学生に向けて、ますます柔軟な対応が必要に!

例えば、現在オンラインのミーティングが主流になっていますが、コロナが収まったからと言ってすべてが対面に戻るはずもなく、その時々によって選択が求められます。オンラインのミーティングは参加者数を増やすことはできますが、そこから強い団結力を生み出すのは難しいこともあります。その場合はあえて対面限定のミー



ティングを実施することになるかもしれません。このように、一つひとつの活動について、目的に沿った対応を選択する必要があります。

マスクに関する個人の選択や、5月からの新型コロナウイルス感染症5類への移行など、世の中は刻々と変化しています。今後は、その急激な変化に柔軟に対応しながら、それを受け入れていくことが大切で学生にもそれを伝えていきたいと考えています。ボランティア支援室では、今後も地域に目を向けて課題を拾い、学生一人ひとりに寄り添って誰も取りこぼさず、「ボランティア」が地域と学生にとって未来を照らす道標になるような取組とサポートを続けていきたいと思っています。

(コーディネーター 柳本 薫)

ボランティア支援室では、地域貢献活動に取り組むさまざまな学生団体を支援しています。活動開始2年目までのプロジェクトには、「YCU ボランティア・スタートアップ補助金」で活動費の支援もしています。

#### YCU ボランティア・スタートアップ補助金

2020年度より学生団体のボランティア活動や社会・地域貢献活動のきっかけづくりとして「YCU ボランティア・スタートアップ補助金」を支給しています。社会課題に取り組むこととおして、学生の自主自律の精神を育成します。2022年度は下記のプロジェクトに交付しました。

◎Clover「YCU×SEED プリスター回収プロジェクト」(本誌P.5参照)

◎みんなの畑「みんなの畑で花を育てよう」

#### キャンパスタウン金沢サポート補助金事業

横浜市立大学と関東学院大学、金沢区が連携した「大学の活力を生かしたまちづくり「キャンパスタウン金沢」」の本学事務局を、ボランティア支援室が担っています。2022年度は以下の5団体が採択されました。

「あしたのTown students」「空き家改修・まちづくりせとさんち」「看護生命科学ゼミ」「医学部YDC」「三浦半島研究会」

#### みんなの畑

#### 休眠中の畑を使って、子どもたちと園芸活動

「植物を育てて大変さや楽しさを知り、生産者の思いを知る」「共同作業を通じて互いのことを知り、安心できる地域につなげる」という2つの目標のもと、本学中庭にある畑を利用して、近隣の子ども・保護者と一緒に植物を育て、収穫する活動を行います。作業をする中で花を育てることを学

び、花を使った工作や雑草を含む生えている草花について学んでいます。

■実施日/12月10日(土)、子ども・保護者14名※新型コロナウイルス感染症や天候などの理由により子どもとの活動はこの日のみ

■場所/金沢八景キャンパス中庭  
■みんなの畑メンバー/2名



#### 医学部YDC

#### 子どもたちに向けた授業とグループワークで伝える医療教育

2011年から市内の小・中学校で「医療」について訪問授業を続けている医学部YDCは2022年度、並木第四小学校で訪問授業を実施しました。前半の授業は5年生50名を前に、3人の講師役の学生によって「なんで私が医学部に?!」「医療機関ってなに?」「感染症について」という3つのテーマで進められました。

後半は授業で学んだことを振り返るために、5人一組のグループワークでケーススタディを行いました。子どもたちからは「グループでの話し合いがとても楽しかった」という感想が寄せられ、学生にとっても今後のプログラムに活かせる良い学びの時間になったようです。



■実施日/12月23日(金)、7:45～11:00(授業は8:45～10:20)  
■訪問先/横浜市立並木第四小学校5年生  
■参加人数/医学部YDCメンバー8名、小学生2クラス合計50名

#### one by ONE

#### オンライン家庭教師活動と入院している子ども向けイベント企画

入院中の子どもたちへの学びの機会を提供と、楽しい体験ができるイベント企画を行っている学生団体one by ONE。2021年度の「YCU Best Student Award(※)」受賞に引き続き2022年度は「YCU Student Award(右写真)」・NPO法人アクションサポート主催の「アクションアワード」大賞を受賞し、学内外でその活動が注目されています。

※さまざまな分野で活躍し、本学の名誉を高め、あるいは学内の士気を高めた学生個人または団体を表彰する制度。

■オンライン家庭教師実績/2022年度70回超(うち夏期講習3回)、生徒19名  
■オンラインイベント実施日/4月10日(日)、9月18日(日)、12月4日(日)、2023年2月26日(日)、子ども・保護者延べ20家族51名  
■参加ボランティアメンバー/延べ25名





循環型食の協働プロジェクト(食のサイクル活動)



2022年度は、フードバンクかながわから冷凍庫の貸与を受け、企業などで廃棄されるはずだった常温品や生活用品に加えて、冷凍食品の配布も開始しています。一般の学生や教職員にも引き取りを呼びかけ、食品ロスの削減に協力してきました。しかしながら、2022年9月に実施したVolunchによる「フードバンク・ボラツアー」のレポート(本誌P.10参照)でも紹介しているように、企業や市民から多くの食品がフードバンクかながわに寄せられており、ボランティア支援室の取組も、食品ロスの解決にはまだまだ遠いのが現状です。



継続的な「食の支援活動」

2021年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大による、生活費を賄うアルバイト収入の減少や、保証人の経済状況の悪化により必要な仕送りが得られないなど、厳しい生活を送っている本学の学生を対象に、食品を届ける「食の支援活動」を継続的に計3回実施しました。「食の支援」は、「自宅外通学やひとり親世帯など、現在保護者の支援を十分に受けられない状態である」、「アルバイト等の減収により生活費を切り詰めている状態である」などの条件を満たしている学生が対象で、事前に登録をすることで受け取りが可能になります。協働している団体・企業のは



2021年度から開始した、生活が厳しい学生に向けた「継続的な食の支援活動」は、実施する中で見えてきた「フードロス」という大きな課題の解決にも活動をひろげています。引き続き公益社団法人フードバンクかながわ(以下「フードバンクかながわ」)、NPO法人セカンドリーグ神奈川、社会福祉法人横浜市社会福祉協議会、社会福祉法人横浜市金沢区社会福祉協議会、株式会社オーパースーツなどの団体・企業並びにボランティア支援室学生スタッフVolunch(以下「Volunch」)、学生団体Table for Two 市大支部(以下「TFT 市大支部」)、一般の学生などとの協働プロジェクトとして活動しました。

か、新型コロナウイルス対策基金(※)も充当し、2022年度は延べ366名の学生に支援を届けることができました。2021年度に引き続き、ご協力いただいた皆様には、この場を借りて改めて感謝申し上げます。



※新型コロナウイルス対策基金 / 新型コロナウイルス感染症患者の治療にあたる本学附属2病院や、学生への経済的支援のため設置した基金。皆様からのご寄附の総額は令和4年12月末時点で約8,550万円に達している。

- 実施日 / 8月3日(水)、11月9日(水)、2023年2月11日(水)
- 場所 / YCU スクエア 2階 Y201、4階 S43 ~ S45

食の支援準備 ちょこボラ

「食の支援活動」では搬入から支援開始まで短時間で準備しなければならず、物品も大量のため、学生ボランティアの力が欠かせません。



フードドライブ活動

食の協働プロジェクトでは、学生団体も「食品ロス削減」という同一目的のために活動しています。2022年度は、TFT 市大支部と Volunch がそれぞれ学内・学外フードドライブを実施。年末には両者がコラボして金沢八景駅前フードドライブを行いました。

Volunch 学内フードドライブ

- 実施日 / 4月11日(月)・12日(火)
- 実施内容 / アースデイ東京のプロジェクト「地元のフードドライブに食材を届けるアクション」の一環として実施
- 寄附品・寄附先 / 合計5422gフードドライブを行っている金沢区内のファミリーマートに寄附



TFT 市大支部 × Volunch 金沢八景駅前フードドライブ

- 実施日 / 12月17日(土)、18日(日)、19日(月)、9:00 ~ 12:00
- 場所 / 京急線及びシーサイドライン金沢八景駅下コンコース
- 参加学生 / Volunch 8名、TFT 市大支部 5名
- 寄附品・寄附先 / 70個をフードバンクかながわに寄附



YCUXSEEDブリスター回収プロジェクト

ボランティア支援室は、地域貢献センターとして、企業からの協働提案にも対応しています。2022年度は、株式会社シードによる使い捨てコンタクトレンズケース(プリスター)のリサイクル活動「BLUE SEED PROJECT(※)」に学生のアイデアをもって参画し、学内独自の協働プロジェクトとして活動を開始しました。



7月、自然・環境問題に関心のある学生にこの活動について参加を呼びかけたところ17名のメンバーが集まりアイデア出しなどのミーティングを重ねました。10月には「学生団体 Clover シーラー (=Sea+Lover)」が発足、学内に4か所設置した回収ボックスによるプリスター回収活動と、海洋ゴミ問題の啓発活動を開始しました。また、11月5日(土)、6日(日)の浜大祭(大学祭)でも、地域の方々や市大生に向けて緑日風のゲームをとした啓発活動などを行いました。

- Clover 参加メンバー / 17名
- プリスター回収 BOX 設置場所 / 八景キャンパス YCU スクエア、シーガル1階学食前、第1講堂入口、いちようの館



回収されたプリスターは、株式会社シードに集められた後リサイクルされ、物流パレットとなって、物流の現場で半永久的に使用されます。またプリスターの販売収益は海の保全団体に寄附されます。このプロジェクトにより2月末日時点で、3.68kgのプリスターが回収されました。2023年度は福浦キャンパスでの回収も視野に入れ、活動を継続中です。

※株式会社シード「BLUE SEED PROJECT」  
https://www.seed.co.jp/blueseed/



## ボランティア支援室主催プロジェクト

Projects Sponsored by Volunteer Support Office



### YCUウクライナ支援プロジェクト

2022年2月24日、ロシアによるウクライナ南東部への軍事侵襲が開始され、多くの市民が巻き添えになっています。

2022年7月、ボランティア支援室では、ウクライナから横浜市に避難している方々の支援を目的として、「YCUウクライナ支援プロジェクト」を立ち上げました。横浜市国際交流協会（YOKE）内に開設された「ウクライナ交流カフェ・ドゥルーズィ」で行われている、避難民の方々に向けたワークショップなどにメンバーが参加して、交流・支援活動を継続しています。



#### 今、私たちにできること

YCU ウクライナ支援プロジェクトに参加している学生の多くは、「テレビの中でしか見れない出来事を自分事として認識できるいい機会だと思ったので参加した」「避難民の方々の現状を知り、協力できることがあるのであれば是非協力したいと感じた」と語り、それぞれが遠い国の状況を自分事として捉え、今何ができるかを考えているようです。

実際にワークショップやボランティアに参加した学生からは「七夕の短冊に「戦争が終りますように」という願い事がいくつも書かれていたのを見て、今まで続いてきた戦争のない世界は当たり前ではなかったのだと痛感した」「ワークショップ中に年配のウクライナの方が母

国の歌を歌い始めて、その後その場にいたウクライナの方全員での合唱が始まった。内容は悲しいものだったそうだが、歌を聞いて、皆さんそれぞれの祖国への思いを感じた。普段は異国の生活に合わせて生きていけるけれど、心の中ですべてのウクライナの方々とは団結しているんだと感じた」「これからの私たちの課題は、こういう人と人との繋がりを持ち、個人の物語や国の歴史または文化を学ぶ姿勢を保つことだと思う。比、貴重な体験をおしての感想が寄せられています。

- YCUウクライナ支援プロジェクト参加メンバー / 44名
- ウクライナカフェ「ドゥルーズィ」でのワークショップ&交流会 / 6月23日(木)4名、8月27日(土)4名、9月24日(土)3名、10月22日(土)4名、2023年2月25日(土)2名参加
- ナトクルーズ交流 / 11月26日(土)5名参加
- 寄贈衣料仕分けボランティア / 12月20日(火)1名、2月2日(木)3日(金)延べ9名参加
- ウクライナ勉強会(講師:YOKE事務局長) / 8月29日(月)8名参加、Zoom開催

### YUC病院ボランティアプロジェクト

「横浜市大生が新型コロナウイルス感染症拡大下の病院のためにできることは？」を課題に2020年末に立ち上がった学生団体「YCU病院ボランティアグループ」は、2021年度に横浜市立大学附属市民総合医療センターの入院患者さんに向けて「折り紙プロジェクト」に取り組みました。2022年度は、徐々に入館が可能になった横浜市立大学附属病院での活動に向けて、検討を重ねました。



#### 病院を併設するヨコイチならではの、院内ボランティア活動

9月15日(木)、16日(金)、世界保健機関(WHO)が定めた「世界患者安全の日(9月17日)」に合わせて横浜市立大学附属市民総合医療センターで開催されたイベントで、2022年のテーマである「薬の安全な使い方」に関する啓発活動を行いました。

また2023年1月には新規メンバーを募

集し、横浜市立大学附属病院における受付付近での患者さんの案内ボランティア活動に向けた見学会・体験会を実施しました。一方、横浜市立大学附属市民総合医療センターで使用している案内チラシやさまざまな様式などの翻訳活動についてミーティングを行い、2023年度からの本格的な活動開始に向けて取り組んでいます。

2021年度に取り組んだ「折り紙プロジェクト」では、患者さんや本学生による折り紙作品を使いフォトモザイクアートを作成。横浜市立大学附属市民総合医療センターに展示されています。

- YCU病院ボランティアグループ参加メンバー / 22名(2023年3月3日時点)
- 「世界患者安全の日(9月17日)」イベントでの啓発活動 / 9月15日(木)、16日(金)延べ4名参加

## ボランティア支援室主催イベント

Events Sponsored by Volunteer Support Office



### 野島海岸清掃活動

#### 春冬2回の「1Day Volunteer」で、野島海岸の海洋ゴミ問題を体験

海に近い環境にある本学にとって、SDGs目標14「海の豊かさを守ろう」は身近な課題です。海岸清掃をとおして海洋ゴミ問題に目を向け、問題意識を高めてもらうために、ボランティア支援室では2022年度「1 Day Volunteer」と銘打ち2回の海岸清掃を企画しました。この活動は一方で、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて学生同士の交流の機会が不足している学生にとって、新たな交流の場をつくることも目的としていました。

1回目の4月29日(金)祝はゴールデンウィーク初日ということもあり、潮干狩り的人出が予想されましたがあいにくの天気となり、後半組は大雨の中での活動となりました。



2回目の12月11日(日)はブリスカー回収活動をしている学生団体 Clover (本誌P.5参照)、ボランティア支援室学生スタッフ「Volunch」と協働し、株式会社シードのスタッフも参加して実施。昔、大量のマイクロプラスチックに「これは拾い切れない」と、あらためて課題を認識しました。

- 第1回 / 4月29日(祝・金)、前半組 10:00 ~ 11:30 20名、後半組 12:00 ~ 13:30 14名参加
- 第2回 / 12月11日(日)、10:00 ~ 12:00 16名参加



### ボランティア実践講座

#### 福祉系ボランティアへのハードルを下げる3ステップ講座

ボランティア支援室が社会福祉法人横浜市金沢区社会福祉協議会と協働して継続的に開催している3Stepのボランティア実践講座は、2021年度から関東学院大学も連携して、2022年度には6回目を開催することができました。福祉の現場ではボランティアを必要としているものの、学生にとってハードルの高い活動であることから、コーディネーターさんによる説明などをおして理解を深めてもらい、参加のハードルを下げるのが目的です。

新型コロナウイルス感染症の拡大もあって、座学のStep1と振り返りのStep3はオンライン開催でしたが、Step2の体験では区内8か所の地域ケアプラザから28プログラ



ムのご案内をいただき、延べ60名の学生が、感染対策を徹底して参加することができました。とはいえコロナ禍のため活動が中止になったり、学生が体調不良でやむなく欠席となったりと、さまざまな困難もありました。

2022年度は、学生の振り返りをクラウド上に記入してもらい、活動先であるケアプラザのコーディネーターさんからも、オンラインでコメントをフィードバックしていた

くなど ICT 技術を使って新たな試みにも挑戦し、今後のアフターコロナを見据えた開催のヒントを得ることができました。

- プログラム参加学生 / 横浜市大18名、関東学院大12名
- Step1(座学) / 7月4日(月)18:00 ~ 19:30 横浜市大17名、関東学院大4名参加
- Step2(体験) / 全28プログラム、延べ60名参加
- Step3(振り返り) / 9月28日(水)18:00 ~ 19:30 横浜市大6名、関東学院大3名参加

## イベント・ボランティア

Event Volunteer

### 海外選手も参加した大会で、安全・安心して参加できる大会運営に一役

2022年度のワールドトライアスロン・パラトライアスロンシリーズ横浜大会は、より安全・安心な大会運営と環境づくりによって開催されました。

学生ボランティアの活動も、スマートフォンによる受付の対応や、検温・手指消毒の対応などにも広がり、また厳格な安全対策を守って来日する外国人選手に向けて、宿泊ホテルや初日(エリート)のフィニッシュエイド、アスリートラウンジにおける言語対応(通訳など)も担当しました。

「耳の不自由な選手が手話を使って話しかけてきたとき非常に焦り、いくつかの主要なものだけでも覚えてくるべきだったと後悔しました。しかし今自分に何ができるのかを考え、ジェスチャーと口の動きを使って選手の要望を理解し、無事に誘導す



ることができました」という感想も聞かれ、対面のボランティア活動がほぼなかった2年を過ごした学生にとって、久しぶりに国際色豊かな場、またパラ選手も多く参加する場での活動は大きな学びになったようです。

- ホテル運営サポート(語学対応)/5月9日(月)～15日(日)延べ16名参加
- 語学対応(エリートグループ)/5月14(土)5名参加
- 受付対応(エイジグループ)/5月15日(日)12名参加



### 秋晴れの空の下、22,500名のランナーを給水とFR隊(ファーストレスポンド)で応援&サポート

3年ぶりのリアル大会となった「横浜マラソン2022」給水、救護ボランティアが担当したのは、それぞれ福浦キャンパスから

も近い南部市場周辺の第8給水所と第8救護所。給水ボランティアは35名の学生が参加し、2チームに分かれてスポーツドリンクを提供しました。準備段階では、ランナーの方が取り

やすく、捨てやすいように想像しながら、カップの置き方や入れる分量、ゴミ箱の設置場所などを細かく調整しました。実際に22,000名超のランナーが通り抜けた約6時間の間は、素早く飲料水を準備するバックヤード班と、飛び散る水滴をよけながら突前まで拍手し精一杯応援するフロント班で

交代しながら大車輪の活動に！飲料水をとって「ありがとう！！」と答えてくれる選手も多く、そのたびに学生も手を振ったり飛び上がったりと、興奮と熱気にあふれた活動となりました。

- 給水ボランティア/10月30日(日)35名参加 南部市場第8給水所
- 救護ボランティアFR隊/10月30日(日)10名参加 南部市場第8救護所、第9救護所FR隊



### 華やかな映画祭で、フランスの香りを肌で感じた5日間

2022年は30周年を迎える記念開催となり、過去3年間新型コロナウイルス感染症拡大の影響で来日できなかったフランスの映画関係者や俳優も多く参加し、久しぶりに華やかなイベントとなりました。



オープニングの日は、みなとみらいホールでの会場設営から始まりました。さまざまな配布物のセッティング、受付が始まりとチケットの確認やプレゼントの引き換え、チラシの配布、感染確認モニターのチェックなど。開場前と並んだ多方の誘導や整理も行いました。

受付の活動終了後は、事務局の配慮で一

観客として、フェスティバル・ミュージアの石田ゆりさんが登壇したオープニングセレモニーを観覧することができました。セレモニーの後は、オープニング上映となったマルタン・ブルボン監督の「エッフェル塔～創造者の夢～」を鑑賞し、終演は22時近くとなりましたが、皆満足げにこの日の活動を終えました。

- 実施日/11月30日(水)～12月4日(日) ※うち映画祭は12月1日(水)～4日(日)の4日間
- 場所/横浜・みなとみらいホール、パシフィコ横浜、イオンシネマみなとみらい、横浜ブルク13、kino cinema横浜みなとみらい
- 参加学生:40名

## ボランティア支援室学生スタッフ Volunchの活動

Activities of Student Staff

### Volunchとは

### 市大生にボランティアの楽しさを発信！

■ボランティア支援室学生スタッフ「Volunch」とは「ボランティアの楽しさを発信し「ボランティア支援室と市大生」→「市大生と地域」をつなげる」「自らもボランティアに参加することで、経験値をあげる」の二つを目標に掲げ、活動しています。

2022年度は、ボランティア経験のない(浅い)学生と一緒にボランティアに参加する「ボラッター」の企画・運営、テーマごとのグループに分かれてのボランティア活動、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて2020年度から始まった新入生に向けたオンライン履修相談会の開催など企画・運営しました。



「ボラッター」では当日一緒に参加するだけでなく、さまざまなボランティアから実施する活動を選ぶことから始まり、団体との打合せや参加学生との事前の交流会、活動内容の共有、当日の活動実施、事後の振り返りとその後につなげるボランティアの紹

介を一連のプログラムとして実施しています。

また、2022年度は食の支援グループ、ジェンダーグループ、リサイクルグループ、子ども食堂グループ、国際交流グループの5グループで活動しました。



### オンラインと対面の両場面における、多様な企画・新しい活動に挑戦！

2022年度は新型コロナウイルス感染症の影響が徐々に少なくなり、多様な企画や、今までになかったような新しい活動が増えたと感じています。具体的には、今までVolunchにはなかったリサイクルグループとジェンダーグループの立ち上げです。「コ

ロナ禍でもできること」や、「コロナ禍だからこそ必要とされていること」を考え、オンラインと対面の両場面において、柔軟に企画・運営することができました。

一方で、困っている人がいたら手を差し伸べてくれるような、温かい人柄のメンバーが多いというVolunchの強みは以前と変わ



らず、どのグループにおいてもお互いにフォローし合えたからこそ、コロナ禍での困難も、新しい企画やこれからの活動の強みにしているのではないかと思います。反差点としては、中には、別グループの

メンバーとは交流の機会が少なく、ほとんど繋がりを持てなかったようなメンバーもいました。来年度は、今年度よりもさらに活動できる幅が広がり、企画の内容も多様化していくと思われれます。後輩たちには、学年を超えたメンバーとのコミュニケーションや、他大学や他団体、地域の方々とつながりを大切に、新しい発想でVolunchの活動を盛り上げてほしいと思います。(3年 浦田 莉梨花)

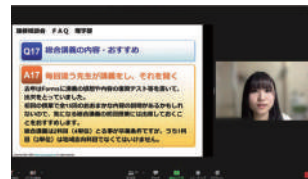
- Volunchメンバー/1年20名、2年12名、3年7名、4年10名
- 2022年度ボラッター/Vol.1フードバンク・ボラッター、Vol.2リサイクル・ボラッター、Vol.3子ども食堂ボラッター
- Volunchグループ/「食の支援グループ」「ジェンダーグループ」「リサイクルグループ」「子ども食堂グループ」「国際交流グループ」

### 前期オンライン履修相談会

### 気軽に参加しやすい雰囲気づくりと分かりやすい説明で新入生を支援

2022年度の前期オンライン履修相談会では、学部別の全体説明会と個別相談会を実施しました。全体説明会はVolunchの新2年生を中心に準備・進行を行い、新入生が気軽に参加しやすい雰囲気づくりと分かりやすい説明を心がけました。オンラインならではの事前準備や当日スケジュールの管理には課題が残りましたが、説明会には多くの新入生に参加していただき、有意義な時間を過ごすことができたのではないかと思います。

また、説明会後に実施した交流会やメールなどでの個別相談には、新入生から大学生活や履修の組み方に関する質問が数多く寄せられ、私たちが自分が入学した頃を思い出しながら話をすることができました。こうした活動が、新入生の新たな生活



- 実施日/全体説明会4月6日(水)、個別相談4月7日(木)～21日(木)
- 対象/教養学部、商学部、理学部の新入生
- 参加学生/学部別全体説明会:一般学生62名、個別相談:14件

に対する不安や疑問を少しでも解消できる機会になっていれば嬉しいです。(2年 室谷 今日子)

ボラツアーとは…

ボラツアーとは、ボランティア・ツアーの略称であり、Volunchのメンバーが、ボランティア初心者や特定の分野において経験の浅い学生の目線に立「市大生と地域をつなぐ」というVolunchの目標の軸となる企画であり、ボラン

市大に寄せられるボランティアの中から初めてでも参加しやすい単発の活動を選定し、って寄り添い、一緒に活動前準備や活動参加、活動後の振り返りを行うプロジェクトです。ボランティア初心者の参加のきっかけ・第一歩となり得る大切な活動です。



食の支援グループ

ボラツアー 2022 Vol.1 「フードバンクがながわ仕分けボランティア」

企業・団体・地域の方々から届いた寄贈品の仕分け作業

今回のボラツアーでは、職員の方に日本と神奈川のフードロスの現状やそれに対する取組などについてお聞きしました。現在日本では貧富の差が日に日に拡大しているにも関わらず、本来食べられるのに廃棄されている食品「フードロス」が年間推計 621 万トンも発生しています。フードバンクがながわは、貧困に苦しむ家庭や団体と、フードロス品をつなげる「パイプ」の役割を果たしています。

仕分け作業では、市場に流通できなかった大量の寄贈品を人が食べられるものか、賞味期限が切れていないか確認し、主食・主菜・副菜・その他に分類して重量を測り記録します。その後賞味期限ごとに分けられた取納棚に置く作業を体験しました。その間も企業や団体から内容や分量も



様々な食品が次々に運ばれ、一つひとつ確認しながら仕分けしないとけない過酷さがありました。

しかし、このような品質には問題のない大量の食品が必要とされる方ところに届くということは、フードロスの削減、食品廃棄にかかるコスト削減、食支援が必要な方への支援という点から、とても価値のあることだと学べたことは大きかったです。(1年 田中 咲百合、野瀬 千里)

- グループメンバー/3年1名、2年2名、1年4名
- 実施日/9月15日(木)、16日(金)各日 10:00~13:00
- 場所/公益社団法人フードバンクがながわ事業所
- Volunchメンバー/加藤、横井、大塚、田中、野瀬
- 一般学生/3名



リサイクルグループ

ボラツアー 2022 Vol.2 「第3回オールグリーン野島ビーチ」

清掃活動で、きれいな海と環境を守るボランティア

清掃活動で海岸をきれいにし、環境問題について考えるきっかけにしたいと、オールグリーン野島ビーチ実行委員会主催の

「2022年 第3回オールグリーン野島ビーチ」にボラツアーとして参加しました。野島海岸に着いてまず目に入ったごみの山は、事前に実行委員会の方に回収されたものですが、ペットボトルやプラスチック製の包装、不織布マスクなどたくさん海洋ゴミが流れ着いていることがわかりました。



清掃活動ではザルを使い、砂をふるいにかけてマイクロプラスチックの回収を行いました。5mm以下のかけらを自力で見つけることは難しく、ザルに残ったものも海藻などと混ざっていました。一番印象に残ったマイクロプラスチックは人工芝です。緑色の芝が無数に落ちており、それを海藻と見分けて袋に入れるという作業は集中力が必要で、1時間30分の活動では到底拾いきれませんでした。当日参加してくれた学生とも、清掃活動中の交流や事後交流会で「これは長期的に取り組まなければ改善しない問題だ！」と意見が一致し、お互い理解を深めることができました。(1年 大東 優紀)

- グループメンバー/2年1名、1年3名
- 実施日/10月22日(土) 13:00~14:30
- 場所/横浜市長沢区野島町・野島海岸
- Volunchメンバー/室谷、板東、山下、大東
- 一般学生/6名



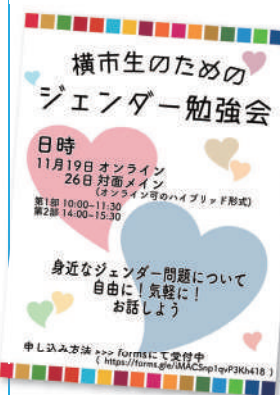
ジェンダーグループ

ジェンダー勉強会

気軽に、ざっくばらんに、身近なジェンダー問題について話し学べる場

今年度立ち上がったジェンダーグループでは、「ジェンダーやセクシュアリティへの偏見、差別、タブー視をなくす」という目的のもと、気軽にざっくばらんに、身近なジェンダー問題について話し学べる勉強会を企画しました。

参加者が、ジェンダーに関して違う視点の考えや新たな情報を得ることでより理解を深め、潜在的なタブー視や差別的な考えに対する気づきを得られるよう、テーマを「性の多様性・LGBTQ」「ジェンダー不平等・女性問題」と広く設定しました。参加者には5分程度の発表をしてもらい、ディスカッションで知らなかった問題などにも幅広く触れられる内容としました。参加は匿名・カメラオフを可とし、発表



の内容や形式も話しやすい方法で行ってもらい、気軽に、自由に話せる雰囲気づくりを心がけました。参加した学生からは「このように自由に話せる機会があまりないため貴重な時間だった」、「自分が知らなかったことをたくさん知れた」という感想を多くいただきました。私自身今回の勉強会を経て、知らなかったことや考えたこともなかったことの多さに驚き、改めて日頃の言動を見直すきっかけとなりました。(3年 浦田 莉里花)

- グループメンバー/3年3名、2年2名、1年1名
- 実施日/11月19日(土)、26日(土)第1部 10:00~11:30、第2部14:00~15:30
- 場所/19日オンライン、26日対面 (Zoomでの参加も可)
- Volunchメンバー/浦田、福田、山谷、川野、千明、高松
- 一般学生/19日第1部4名、第2部1名、26日第1部4名、第2部2名



子ども食堂グループ

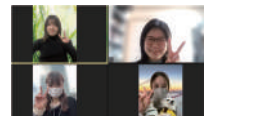
子ども食堂「チルドレンズカフェ」ボランティア

まずはVolunchでボランティア体験！次はボラツアーで企画・運営を経験！



子ども食堂グループでは、鎌倉にある子ども食堂「チルドレンズカフェ」でボランティアを実施しました。グループメンバーが子ども食堂の活動に参加し、準備や配膳の手伝い、子どもの話の聞き役などをしました。現在はチルドレンズカフェで「ボラツアー」を行うことを企画しています。ボランティアメンバーが一般学生のボランティア活動をサポートする形にすることで、新たに一般学生にも募集対象を広げようという計画です。

今後の目標として、チルドレンズカフェの支援を充実させることはもちろんですが、一般学生に向けて子ども食堂の認知を上げる活動をし、「子ども食堂」という組織自体の支援をできればと思います。子どもたちが手作りのご飯を誰かと一緒に食べる機会を増やし、子どもたちが笑顔になれば嬉しいです。(1年 高橋 舞美)



- グループメンバー/3年1名、1年5名
- 実施日/2023年1月11日(水)、25日(水)、2月8日(水)
- 場所/鎌倉チルドレンズカフェ
- Volunchメンバー/高橋、大石、城戸、山下、町田



国際交流グループ



2022年12月発足！  
2023年度4月からの活動開始に向けて準備中！  
やっとキャンパスに戻ってきた留学生の支援を！

- グループメンバー/3年1名、2年3名、1年7名